

平成 23 年度 「災害多言語支援センター設置・運営訓練」「外国人のための防災訓練」 報告

- 実施日：平成 24 年 1 月 21 日(土)11:00～16:30
- 場所：京都テルサ東館3階大会議室ほか
- 対象：災害時の外国籍府民支援に関心のある方、外国籍府民
- 参加者数：計 142 名
災害多言語支援センター設置・運営訓練 日本人等 74 名
外国人のための防災訓練 外国人 68 名(16 の国または地域)
- 参加費：無料
- 主催：(財) 京都府国際センター
- 共催：近畿地域国際化協会連絡協議会、京都府、京都市

「災害時外国人支援ネットワーク多言語支援センター設置の手引き」等に基づき、多言語支援センターの設置、多言語による情報の翻訳・提供、相談訓練などを行うことにより、必要な支援や課題等を検証するとともに、災害時外国籍府民サポーターの育成を図る。

併せて、外国籍府民を対象とした防災訓練を実施し、地震、救急救命等に対する意識と正しい知識を身につけ、災害について学んでもらう機会とする。

災害多言語支援センター設置・運営訓練

- －災害多言語支援センターの概要と業務について講義を聴き、その後班別に実際の活動を体験
- －災害対策本部などから送られてくる情報を選別し、多言語またはやさしい日本語に翻訳／転換する訓練
- －避難所を訪れ、外国人被災者(「外国人のための防災訓練」参加者)の相談に答える訓練

外国人のための防災訓練

- －防災ガイドブックや防災カードを用いながら災害や防災について講義
 - －起震車体験
 - －救急救命・心肺蘇生(胸部圧迫、AED 講習)訓練
 - －避難所巡回訓練参加(外国籍府民被災者役)
- ※両訓練とも、非常食体験

アンケート感想

- ・いざというときにあたふたしないよう、現場をイメージし考える訓練ができた(複数)。
- ・災害多言語支援センターの運営を一部だが経験して、どのようなことが大切か、またその大変さを理解することができた。
- ・多言語支援という言葉が分かりづらい。日本人社会への普及が必要。
- ・初めての経験で何をどうすればよいか分からなかったが、実際はもっと大変になるので、その準備を思えば良い経験になった。
- ・日本語教育に防災の視点が非常に重要であると感じた。
- ・外国人が入ったグループと、そうでないところで、作成したポスターにわかりやすさに差があったのが面白かった。役立つツールを紹介してもらったのもよかった。

平成 23 年度 災害時外国籍府民サポーター研修(南部) 報告

- 実施日:平成 23 年 12 月 18 日(日)13:00~16:00
- 場所: 京都府センター会議室
- 対象:災害時の外国籍府民支援に関心のある方
- 参加費: 無料
- 参加者数: 22 名
- 主催: 財団法人京都府国際センター
- 共催: 福知山市、福知山市教育委員会、福知山日本語交流会、
京丹後市国際交流協会、
綾部市、綾部市教育委員会、綾部国際交流協会

1月21日(土)に開催の「多言語支援センター設置・運営訓練」で行う、災害情報の翻訳訓練や、避難所巡回訓練の事前研修と位置づけて実施。

講演 災害時に外国人が直面する課題とボランティアに求められる役割

講師:時 光 氏(NPO 法人多文化共生マネージャー全国協議会)

災害時に外国人を支援する必要性、ボランティアとしての心構え等、
講師の体験(東日本大震災、中越沖)談について

グループワーク もし、24 時間後に大地震が起きたら？

指導:高木 和彦 氏(NPO 法人多文化共生マネージャー全国協議会副代表理事)

多言語支援センターの概要と1日のスケジュール説明

「災害多言語支援センターでボランティア活動をするようになったら、何を持って行くか？」について意見を出し合い、グループ発表。

アンケート感想

- ・活動について具体的なイメージがつかめた。
- ・多言語支援センターについて知識を深めることができた。
- ・外国人として、“災害時に何か役に立ちたい”という思いを強くした。
- ・日本人同士でも、「してもらいたい」ニーズがうまく伝わらないのに、外国籍の方々のニーズをくみ取ることがいかに難しいかわかった。また、どのようにすれば良いか知ることができてよかった。
- ・一人では思いつかないことも、グループワークや全体発表で改めて気づく点が多くあり、大変参考になった。

平成 23 年度 災害時外国籍府民サポーター研修(北部) 報告

- 実施日：平成 23 年 8 月 21 日(日)13:30～16:30
- 会場：舞鶴市林業センター会議室(舞鶴市南田辺 1 番地 西総合会館内)
- 参加者：外国籍府民のサポートに関心のある方 ※ボランティア経験の有無は問わない
- 参加費：無料
- 主催：財団法人京都府国際センター
- 後援：舞鶴市

講演「災害時における外国人支援サポーターとしての基礎知識」

講師：柴垣 禎 氏(NPO 法人多文化共生マネージャー全国協議会理事)

ワークショップ「災害時に外国人を助ける『やさしい日本語』」

指導：杉本 篤子 氏(「やさしい日本語」有志の会会員)

※この研修は、9月4日(日)に舞鶴港第三埠頭で行われる「京都府総合防災訓練」の一環として実施する「多言語支援センター設置・運営訓練」の事前研修と位置づけ、同訓練に参加する上で知っておくとよい基本的な知識やスキルを習得する機会を提供する目的で実施されましたが、9月4日の訓練は、台風のため中止になりました。

アンケート感想

- ・外国籍の立場になって、どんな問題点があるのかを具体的に示してもらい、よりよく分かった。
- ・普段気に留めることのない外国人ならではの分かりにくい部分を説明してもらうことで、どういったことが障害になるのか分かりやすかった。
- ・舞鶴市は隣の福井県原発が近く、原発の不安があるので、関係する言葉を説明できるよう学習しなければいけないと感じる。
- ・このような支援サポーターがあることに驚いた。舞鶴にも必要だと思うし、今からもう少し情報をいただき、準備する必要があると思った。